



# みずみどり

2025年8月1日 第169号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295

# 地球温暖化と樹木の働き

## 「エコライフフェア夏」いたばし水と緑の会の取り組み



葉から水が蒸発して涼しくなる

葉では、日光、吸い上げた水、空気中の二酸化炭素で栄養をつくる。できた酸素を空気中に出す（捨てる）

幹に栄養を蓄える。  
栄養＝炭素の固まり

## 今年も暑い、暑い夏

「エコライフフェア夏」が6月14日（土）～6月29日（日）、エコポリスセンターで開催されました。テーマは、「地球温暖化防止に関わる活動やSDGsの推進」。例年の「かんきょうでも見本市」よりテーマがはっきりしています。

今や温暖化はだれもが感じる問題です。いたばし水と緑の会では2007年に三島次郎先生の勉強会で赤塚公園の樹木54本が二酸化炭素を吸収すること、木が水蒸気を放出することによって、どの位涼しくなるかを、樹木を実測して計算しました。今回、勉強会で学んだ樹木の働きをおさらいし、わかりやすい大きな絵にして展示することにしました。

木が根から水を吸い上げて、葉から蒸発させ、蒸発熱を奪って涼しくなる、と言われてもピンとこない。もっとわからないのが、木が二酸化炭素を吸収する光合成のこと。「あ、そう」と言葉は知っているが、どういものかよく考えるとむずかしい。佐藤さんが孫の愛読書の「植物のサバイバル」という漫画をもってきて、読み上げて??..言葉で考えて??..無理やり理解した?。木が根から水を吸い上げ、一枚、一枚の葉から水蒸気として放出する、また葉で光合成した栄養を枝や、莖や幹や根に運ばれる仕組みは、人間の毛細血管と同じですね。植物はえらいと思いました。さらに温暖化だけでなく、生き物の関りの中で自然をつくっていることを表現しようと、虫や鳥を、土の中にもミミズや生き物を描きこんだら、子供が書いたような絵になりました。でも一生懸命考えて、理解しようとしたこと、私はとても勉強になりました。

## 「都市の温暖化対策は緑地の保全」..これは国の方針

バスを待っていたら私と同年配の女性が「暑いですねえ。温暖化だからしょうがないねえ」と言った。屋外での活動がこれからもずっと制限されるのです。次世代へのツケですね。都市の温暖化対策って何だろう、とネットで調べたら、国交省のホームページに出会った。「都市の温暖化対策」=「緑地の保全」でした。それはいたばし水と緑の会の2007年の勉強会の結果と同じでした。その結果とは。

### 赤塚公園(8丁目)の樹林地で参加者19人が54本の木を測定した結果

#### ●54本の木の一年間の蒸散量は

家庭用クーラー183737台分(1日8時間運転)に相当

#### ●54本の木の一年間の二酸化炭素吸収量は

ガリン 15783リットルに相当

樹木の働きってすごいですね。最新の科学技術でも二酸化炭素と水からブドウ糖やでんぷんをつくることもできない。植物はえらいのです(坂本 郁子)。

エコライフフェア一夏で展示したパネルの木と生き物の絵は、子どもたちが見てもわかりやすかったと思います。

クイズ(木陰と建物の日陰はどちらが涼しい?)がありました。クイズの答え、葉から水を出すこと(蒸散)で木陰が涼しいと書いてもよかったと思います(佐藤 克子)

温暖化抑制のため森林は大切という知識しか持っていない私が皆といっしょに絵を描きながら温暖化の他に生態系の共存、土砂崩れ防止など1本の木から想像が広がっていきました。展示会場では絵のインパクトがありクイズの答えを考えたり、大人も子供もある程度の興味を持ち見ていたようです。他の出展団体や企業の方と交流もあり良かったです。

また、エコポリからの帰り道に近くにある日暮台公園に立ち寄ると公園内の安全性向上のため斜面補強工事のお知らせの看板がありました。

補強ロックボルト工事等の他に伐採伐根工事もあると書いてあります。

樹木や笹などが多い緑の公園を見渡して温暖化抑制につながる木を切ることは最低本数にしてほしいと心から願いました(小林 悦子)。

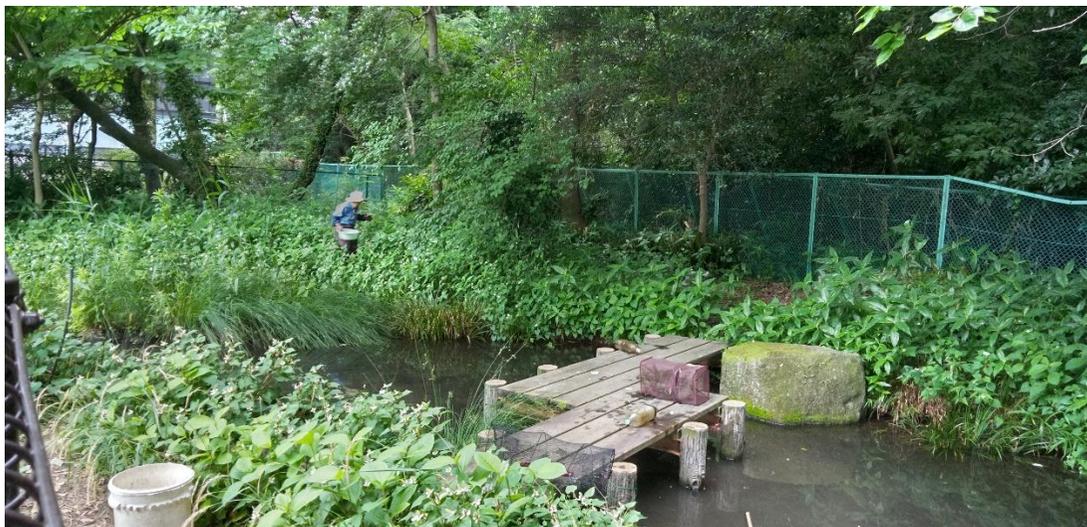
## 赤塚トンボ池

# トンボとアメリカザリガニ

トンボ池のアメリカザリガニは減ってきましたが卵を持ったメスがいるらしく、稚ザリガニが出現しているそうです。

駆除方法としてエサの入ったペットボトルを池の中にしかけ、週3回、回収して処分しています。毎回30匹前後のザリガニが入っています。

なかなか水草の生える池にはなりそうにない状況ですが、ここでは、木も葉も草も昆虫も活発に生育しています。6月はオオシオカラトンボの産卵を見ました。今は草木が生き茂り蒸散効果でとても涼しいです。木は大切です（2025年7月13日 佐藤 克子）



写真上 ザリガニ捕獲中

写真下 オオシオカラトンボオスたちが目まぐるしく飛び交い、くたびれて、一休みしているところ。

オオシオカラトンボは、メスを独占するためお互いを追放しあっているのです。メスが来て、腹の先をちょんちょんと水につけて産卵する間、オスは付き添って見守ります。

シオカラトンボも来ますが、やや薄暗い環境が好きなオオシオカラトンボの方が多い。

# ザリガニはどうして減らないのだろう



昨年は6000匹捕獲しました。その前、2022年、2023年は、それぞれ500匹以上捕獲しました。

今年は、冬の間も捕獲し続けました。

ザリガニの成長過程がわかるようになりました。冬の間でも成長し、だんだん大きくなっていくザリガニを捕獲し続け、真っ赤な大人のザリガニになった。

同時に7月になったら、中位からミニサイズのザリガニが出てきた。7月21日に回収したザ

リガニは大小80匹。彼らが大きくなって8月にはザリガニ釣りシーズンになるのですね。

写真下は、ペットボトルのトラップです。こんな小さな口から中小（かなり大きいのも）のザリガニがよく入ります。入ったら戻れないように、返しをつけていますが、絶対戻れないようきっちりした返しをつけると、入ってこない。ザリガニ捕りも頭を使



うのです。

それにしても、また一年、殺生を続けるのかと思うと、気が滅入ります。

赤塚トンボ池は、住民参加で池づくりの計画を考え、池の粘土貼りなどの作業も住民参加で行いました。池づくり参加者も気が入っていました。

## 赤塚トンボ池 甘かった？「都会で自然を取り戻す」取り組み

「都会で自然を取り戻す」取り組みはスタート早々に出鼻を挫かれた。1999年3月に池が完成し、5月の連休には、「子供たちが金魚やザリガニ釣りをしている」との情報。自然の池は生き物の捨て場所になったのです。横浜市役所の「トンボ池づくり」の大先輩に相談しました。「広報で大々的に公表してかいぼりしなさい」とアドバイスを受け、見物客が見守る中ザリガニを大

っぴらに駆除。ザリガニ駆除は板橋区が最初と思う。以来、折々に駆除してきましたが、ザリガニは増えることはあっても減らないままで、これまで来ました。

## アメリカザリガニ対策とは

2022年5月、改正外来生物法により、アメリカザリガニの輸入、販売、野外への放出が禁止されました。環境政策課に「どうしましょうか」と相談。「子供たちにザリガニ釣りをさせたら」という案もありましたが、私は子供を駆除に関与させたくなかった。環境省の「アメリカザリガニ対策の手引き」を参考にしなさい、というアドバイスをいただきました。手引きには、捕獲用トラップのいろいろ、防除計画を立てて地域の住民と一緒にやるなど、書かれていました。しかし完全に駆除できた事例はなく、数年間防除を続けてザリガニはいるが他の生物が回復したというような、勇気がわく展望はありません。言うは易くで、継続はむずかしいのです。

池に遊びに来た小学生が「アメリカザリガニは特定外来生物だ」と言ったので驚きました。ザリガニの問題は子供達にも伝えられているようです。最近では子供たちはザリガニを欲しがらない。ザリガニのかわりに？カナヘビを飼う子供が多い。カナヘビの飼育にバッタ広場にエサのバッタなどを探しに来ます。複雑な気持ちです。自然は無尽蔵ではない。

## 捕ったり 捨てたい

昨年、クサガメがアナゴカゴにかかった。飼っていたカメが捨てられたらしい。小さなケース飼われていたカメが池の中で気持ちよさそうに泳いでいる姿は絵になりました。しばらくしていなくなったのは、誰かが持っていったからでしょう。今年別のクサガメが泳いでいました。1週間ほどでいなくなりました。

何年か前、夏にヒキガエルがもんどり（ザリガニトラップ）の中で水死していました。その1週間ほど前、バッタ広場にいたカエルを無理やり持ち帰った親子がいましたが、飼いきれずに捨てたカエルだと私は想像しました。

「池にサワガニがいた」と大喜びで釣巻さんに写真を送ったらアカテガニだろうといわれました。サワガニがここにいるわけですね。その後もアカテガニを見だし、最近見せてもらった不漁の滝のカニの写真もアカテガニ、徳丸緑地でもアカテガニを見ました。アカテガニは売っているのでしょうか。アカテガニは海で卵を産みます。アカテガニの人生はどうなるのでしょうか。

どなたかが放したクチボソ（魚）が増えています。困る生き物ではありません。大きなドンコ（ハゼの仲間）が網にかかりました。きれいな水にすむ魚で、ザリガニを食べるから置いておけと言われましたが、死んでしまいました。

ゴミも捨てられる。何度か水の中にペーパータオルを捨てられ、掬って乾かしてゴミに出します。意地悪なのか、何とも思わないのか・・・公園清掃の人たちのご苦労がわかります。

（坂本郁子）。 次号に続く

今年は梅雨明け前の6月から夏日が続く、本格的な梅雨明け後は体温を超える猛暑日が続いている。体感温度は40度越えだ。緑陰という言葉が示すように木陰は涼しい。

最近の公園の樹木は、夏になってから剪定がされ電信柱のような緑を見かける。葉っぱが数えられるほどの量の樹木の下に行っても木陰に入ると幾分涼しいが、しっかり枝が張りその枝に葉っぱが沢山ついている見た目にも美しい樹木の下に行くと本当に涼しく汗が引く。

「ふっとうきょう」と言われる東京に、私はもっと緑が欲しいとおもう。せつかく樹木があっても、緑陰からほど遠い姿ではなく、猛暑でも樹木がしっかり育っていける力を宿した緑が増えてほしいと思う（雨宮 清子）。

# バッタ広場の生き物しらべ

## 7月26日(土)

生き物調べ当日はお天気が良く暑い日でしたが、いたばし水と緑の会の会員を含め、20名の参加となりました。

おじいちゃんと参加したお子さんや、ベビーカーのお子さん連れのお母さんなど幅広い年齢の方にご参加いただきました。

暑い中で効率よく進めるため、注意事項は事前のメールでお知らせし、早々に観察に出発しました。



ため池の梅林ではニイニイゼミの抜け殻や、アブラゼミ、ミンミンゼミの抜け殻を探しました。

初めは戸惑っていた子どもたちも次々と抜け殻を見つけて集めていました。そのあと、溜

池公園の杭についたコシアキトンボのヤゴの抜け殻を観察し、バッタ広場に向かいました。

バッタ広場の奥の茂みの中ではゴマダラチョウの幼虫を見つけ、男の子が触ると触覚を伸ばし、そのユーモラスな姿を観察しました。また、カブトムシ



を捕まえた男の子はととてもうれしそうでした。チカラシバの原っぱでは様々なバッタやシジミチョウなどを捕まえました。思い思いに生き物を探し、プラカップに入れました。採集は30分ほどで、木陰に集合となり、



みんなが捕まえた生き物の数を数えながら説

明を聞きます(写真左)。

ショウリョウバッタは足を開いて止まるが、オンブバッタは閉じているなど見分け方や、キリギリスの仲間にはひげ(触角)が長く触覚が優れていて夜活動するが、バッタは触角が短く目が大きく?昼活動するなど、虫たちの特徴を聞きながら数えます。ツチイナゴは冬の間成虫で越冬し、採集したのは生まれたばかりの小さな個体です。バッタ広場に多いツチイナゴはクズの葉を食べるなど、色々と知識を深めました。

確認した生き物はショウリョウバッタは14匹、その次にツチイナゴ2匹、その他で22種類の生き物を観察し、もといいた草原に返してあげました。

観察中にケガや体調を崩す人もなくみんな楽しい思い出をいっぱい帰途につきました。

### 採集し観察した生き物

カブトムシ オス1・メス死骸1、コクワガタ メス1、カナヘビ1、ヤマトシジミ1、ショウリョウバッタ14、

バッタの仲間1、ニイニイゼミ抜け殻、ニイニイゼミ死骸1、セミ(ミンミンゼミかアブラゼミ)

抜け殻、コカマキリ

幼虫1、キリギリス

2(ホシササキリ)

(写真左下)、キマ

ダラカメムシ幼虫

抜け殻1

クビキリギス1、ツ

チイナゴ2、ゾウム

シの仲間1、コメツ

キムシの仲間、コフ

キコガネ1、ベニシ

ジミ1、

アリ1、マメコガネ

死骸1、ゴマダラチ

ョウ幼虫、アオドウガネ、ダンゴムシ (鈴木より子)。



## 活動・観察記録(6月~7月)

### トンボ池

ザリガニ捕獲(908匹)。カルガモ飛来、オオシオカラトンボ、コムスジ、タマムシ、オオヒラタシデムシ、コクワガタ、アミガサハゴロモ(外来)、イオウイロハシリグモ、サトキマダラヒカゲ、キマダラセセリ、オオカマキリ幼

### バッタ広場

クマバチ、ニイニイゼミ、ウスバキトンボ、カナブン、アカボシゴマダラ、コクワガタ、シオヤアブ、カメノコテントウ、ショウリョウバッタ幼、カマキリ幼、ナガコガネグモ、コムスジ、オオミズアオ、シロテンハナムグリ、ヒカゲチョウ、

### 赤塚ため池

コシアキトンボ、コシアキトンボヤゴ抜け殻

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

## 赤塚ビオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時（第2日曜日と第4土曜日）

8月10日（日）9時半～10時半

8月23日（土）9時半から10時半

9月14日（日）9時半～10時半

9月27日（土）9時半～10時半

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、虫よけ薬、

日暮台公園と樹林地の観察 工事中のため休みます

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。